

## トラフグのふ化仔魚放流（2020）



今年度も昨年度に引き続き、与島漁協の岩黒島の漁業者、そして新たに瀬戸内漁協の漁業者がトラフグのふ化仔魚放流を行いました。

（トラフグの生態や漁獲量などの情報については、前年度に書きました高級魚 トラフグのふ化仔魚放流をご覧ください。）

昨年度は、ハッチングジャーを用いましたが、今年度はアルテミアふ化槽（0.5kL）を用いてふ化仔魚放流に取り組みました。

放流結果は以下の表のとおりとなりました。

トラフグふ化仔魚放流結果（令和2年度）

採卵日	収容場所	収容卵量(g)	収容卵数(粒)	ふ化率(%)	放流日	放流ふ化仔魚数(尾)
4月22日	瀬戸内	910	637,000	0.05	5月9日	326
4月25日	与島	507	354,900	42.18	5月8日	217,590
4月26日		230	161,000			
5月6日	瀬戸内	360	252,000	0.02	5月21日	46

※1gあたりの基準卵数：700粒

○ 卵収容から放流まで

	
<p>ふ化器（アルテミアふ化槽）</p>	<p>船に積込、放流の準備（与島）</p>
	
<p>卵収容後の様子（瀬戸内）</p>	<p>船にタンクを載せて放流場所へ（与島）</p>
	
<p>今回、ふ化した仔魚（10倍で撮影） 平均 2.80mm</p>	<p>ふ化仔魚をいただいて、 水産試験場で飼育中のトラフグ 餌を食べて大きくなっている。（1マスは5mm）</p>

今年度のふ化仔魚放流は、親の卵質が安定しなかった影響もあり、ふ化率は低いものとなってしまいました。しかしながら、漁業者が自ら資源を増やすと取り組みは今後も続いてほしいものです。

（文責 技師 林和希）